

写真とファッション

90年代以降の関係性を探る

Photography and Fashion Since the 1990s



アンダース・エドストローム

Anders Edström

高橋恭司

Kyoji Takahashi

エレン・フライス × 前田征紀

Elein Fleiss × Yukinori Maeda

パグメント

PUGMENT

ホンマタカシ

Takashi Homma

[会期延長]

2020年7月19日[日]まで開催

開館時間：10:00-18:00 ※入館は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日

東京都写真美術館2階展示室
(恵比寿ガーデンプレイス内)

観覧料：一般800円／学生700円／中高生・65歳以上600円

※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※各種割引の併用はできません

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網、東京都写真美術館支援会員



1



2



3

写真とファッション

90年代以降の関係性を探る

Photography and Fashion Since the 1990s

本展覧会では、「写真とファッション」をテーマとし、1990年代以降の写真とファッションの関係性を探ります。

これまでのファッションが発展する過程において、写真は衣服が持つ魅力を伝えるという重要な役割を担ってきました。

写真によって作り出されるイメージは、ときには衣服そのものよりも人々をひきつけ、時代を象徴するようなイメージとなっています。

1990年代に入り、ファッションの魅力伝えるという枠組みを超え、人々に訴えかけるイメージを作り出す写真家や、インディペンデントなスタンスで情報を発信するファッション誌が登場しました。

彼らの活動は、人々の考え方やライフスタイルにも影響を与え、その後の世代にも繰り返し参照されています。

写真とファッションの関係性は、インターネットが普及した2000年代以降、さらなる変化を遂げます。

かつては新聞や雑誌の編集者、記者など、限られた人々を介して伝えられていた

最新のファッションショーや展示会の様子も、近年ではツイッターやインスタグラムなどのSNSを通して、タイムラグなく一般の人々の手に届けられるようになりました。

また、情報を受け取るだけでなく、タグ付けをしたセルフィー（自撮り）に代表されるように、受け手自身も様々な形で情報発信を行っています。

本展覧会は、長年にわたり文化誌『花椿』の編集者として

ファッションやアートの世界を見つめてきた林央子氏を監修に迎え、

国内外のアーティストによる作品を通して「写真とファッション」の関係性を探る試みです。

時代のターニングポイントとなった稀少なファッション誌の展示など、

様々な角度から写真とファッションをお楽しみください。



4



5

※会期中に関連事業を予定しております。

また、事業はやむをえない事情で変更することがございます。

最新情報は当館ホームページでご確認ください。

表：アンダース・エドストローム〈Martin Margiela spring/summer 94〉より 1993年 作家蔵 ©Anders Edström

1：高橋恭司《Tokyo Girl》〈The Mad Broom of Life〉より 1992年 作家蔵 ©Kyoji Takahashi, courtesy of nap gallery

2：エレン・フライス《Ici-bas (in this lower world)》 2019年 作家蔵 ©Elein Fleiss

3：PUGMENT〈Spring 2018〉より 2017年（撮影：三野新）©PUGMENT

4：PUGMENT × ホンマタカシ〈Images〉より 2019年 作家蔵 ©PUGMENT, ©Takashi Homma

5：前田征紀《Spiritual Discourse》 2020年 作家蔵 ©Yukinori Maeda, courtesy of Taka Ishii Gallery

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel: 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。

当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。